

最期まで自宅で過ごしたい。
痛くない死に方がしたい。

2500人を看取った尼崎の
町医者に迫ったドキュメンタリー映画

人生いろいろ、
医者もいろいろ

「痛くない死に方」「痛い在宅医」の長尾和宏の日常に迫る。

けったいな 町医者

ナレーション：柄本佑

製作：人見剛史／内視朗／小林未生和

エグゼクティブプロデューサー：鈴木祐介／見留多佳城

企画：小林良二 企画協力：小宮亜里 プロデューサー：神崎良／角田陸

監督・撮影・編集：毛利安孝 制作会社：Gカンパニー 配給・宣伝：渋谷プロダクション

2020/JAPAN/stereo/DCP/116min

家が病室で、町が病棟や、 尼崎の町医者 の日常を記録した ドキュメンタリー映画。

病とではなく
人間と向き合う
医者がある。



皆さんは、「町医者」「在宅医療」という言葉に どんなイメージをお持ちだろうか？

白衣を着て、美人の看護師を連れて、大きなカバンを持って、
なんだか威張っている。

……そんなイメージをちゃぶ台返してしまう町医者が、
尼崎にいた。好きな物を食べたい。最期まで自宅で過ごしたい。
痛くない死に方がしたい。そんな患者さんと、家族の想いを
守るために町医者は今日も全力で走る。怒る。泣く。歌う。看取る。
下町を舞台に、生と死を見つめる問題作。本作と同時公開する
映画「痛くない死に方」で長尾和宏が
モデルの長野浩平役を奥田瑛二が演じた。



けったいな医者やなあ。この作品を観て、
一番僕がそう思いました
町医者という言葉に嫌う在宅医がいます。大病院の医者より下に見られる差別用語だと。でも僕は「町医者」にこだわりたい。その理由はこの作品を観てください。僕をこんな町医者に育ててくれた患者さんすべてに、感謝を込めて。

—— 長尾和宏

たった2か月であったが、ずっと長尾先生の
後を懸命に追いかけた日々だった。
そこで確信できたことは、尼崎というバイ
タリティーに溢れる町と人が長尾和宏とい
う「けったいな町医者」を求め、作り出
したということだった。この町では「病」
以上に「人」と向き合わなければ医者として
確実にボロが出る。この撮影を経て、今ま
で以上に人間が好きになれた。
そして今この瞬間も、胸ポケットに携帯電
話を忍ばせて長尾和宏は患者たちとまっ
すぐにつながっている。

—— 監督・毛利安孝



映画「痛くない死に方」3月5日(金)~関西地方上映開始

なんばパークスシネマ | テアトル梅田 | 京都シネマ | イオンシネマ京都桂川 | 神戸国際松竹 | 塚口サンサン劇場にて上映
原作：長尾和宏 監督・脚本：高橋伴明 出演：柄本佑 坂井真紀 余貴美子 大谷直子 宇崎竜童 奥田瑛二

関西地区 ロードショー

大阪府 2月26日(金)~ 京都府 2月26日(金)~ 兵庫県 2月26日(金)~ 兵庫県 3月5日(金)~

PARKS CINEMA
050 (6864) 7125

京都シネマ
075 (353) 4723

神戸国際松竹
078 (230) 3580

塚口サンサン劇場
06 (6429) 3581

劇場窓口にてシニア券1,000円で発売中(60歳以上の方のみ購入可能) 舞台挨拶・イベント等は劇場HPもしくはSNSをご確認下さい。